



「高尾の森づくりの会」へのお誘い



「高尾の森づくりの会」は、公益社団法人「日本山岳会」が母体となって2001年1月に発足した森林ボランティアの市民団体です。趣旨に賛同する方は、どなたでも自由に参加することができます。

活動場所

- ・活動フィールドは、八王子市裏高尾町の東京神奈川森林管理署が所管する高尾小下沢国有林（風景林）102ヘクタールです。この広大なエリアで一年を通して森づくりに取り組んでいます。
- ・東京神奈川森林管理署と「森づくり活動に係る協定書」を結んでいます。

作業日

- ・活動は毎月第2土曜の定例作業日を主体に行っています。参加者は毎回平均60人程度、年間の合計はのべ1,000人に及んでいます。

主な活動

- ・広葉樹を植樹して針葉樹と広葉樹の混交林の造成を進めています。春から秋にかけて下刈やつる切りを、冬には間伐や地拵えを実施し、植樹地の手入れをしています。
- ・手入れの行き届いていないスギ・ヒノキの人工林では除伐・間伐を行っています。
- ・のびのびと育った巨樹の森を目指して今までに約2万本の広葉樹を植樹してきました。
- ・このほか登山道の整備、風景林の修景作業など

の森林整備を行います。

- ・また、森の研修会、チェーンソー講習、美林見学会、支援企業との交流会、森づくりボランティア支援などのほか、作業小屋にて間伐材を活用した「木工品作り」にも取り組んでいます。

植樹祭

- ・発足以来15年間、毎年植樹祭を実施してきましたが、植樹するまとまったエリアがなくなり、2016年から2年間は、手入れが行き届いていない人工林の間伐を行う育樹祭を開催しました。その後、荒天やコロナ禍による中断をはさみ、2022年から植樹祭を再開し、毎年実施しています。

親子森林体験スクール

- ・未来を担う子供たちに森に親しんでもらう目的で「親子森林体験スクール」や「親子キャンプ」を企業等と共催で実施しています。

各種プロジェクト活動

- ・隣接する木下沢都有林でも、都より森づくり活動の承認を得て、毎月作業を行っています。
- ・高尾で培った技術を生かして、三宅島復興支援緑化再生プロジェクトなど各地で復興、緑化再生の支援を行っています。

植樹祭の開催



間伐に挑戦



動物カメラによる定点観測

- ・2010年頃からシカを目撃情報が寄せられたことからカメラを設置したところ、2013年からシカの映像が確認されました。現在8ヶ所に定点カメラを設置していますがこの数年でシカが激増。特に2016年にメスジカが確認されてから6年間で14倍に増加。下草のみならずアオキ等の新芽の食害が目立つようになりました。更に植樹した苗の新芽が標的になったため、植樹と同時にシカ対策として色々な形状のシェルターやシカ柵を実験的に設置しています。
- ・また、高尾山系には30数種の哺乳類が生息していると言われていたのですが、カメラには17種が確認されており、調査データは林野庁、東京都、八王子市、高尾599ミュージアムなど18関連先に報告しています。

森づくりの目標

- ・私たちの森づくりの目標は、かつてここにあった「多様で豊かな森林」を復元することです。
- ・目標とする森林は、植物種が多様で、多彩な林相の森林、また、動物相が豊かで、景観・活力に優れ、森からの恵みも活用できる森林です。
- ・活動指針として50年間のビジョンを定めた「長期計画」を作成しています。



植樹後7年のウワミズザクラ（径24cm）



初年度のヤマザクラ

50年後の目標

- ・広葉樹の混じる混交林の比率を、18%から58%に増やしていきます。
- ・また、多様な樹種の混じった混交林となるように、群状集団植樹（1樹種1ユニット当たり20本）を採用。最終的に100㎡当たり、1～2本の高木の成立を目標にしています。
- ・スギ・ヒノキの単相林の比率は、81%から41%へ、100年生以上の巨樹林に仕立てます。

会の構成（2024年7月現在）

個人会員：約170名（内訳：男性80% 女性20%）

法人会員：11社（伊藤ハム米久ホールディングス(株)、(株)エリオニクス、グローリーエンジニアリング(株)、コニカミノルタ(株)、ささえあホールディングス(株)、高尾登山電鉄(株)、(株)トヨタカスタマイジング&ディベロップメント、トヨタ東京自動車大学校、電源開発(株)、富士電機(株)、三井住友信託銀行(株)）

特別支援団体：公益社団法人国土緑化推進機構 京王電鉄株式会社

★入会を希望される方は、ホームページからお申し込みください。

<http://jactakao.net/admission.html>

印刷協力：コニカミノルタ(株)